

嘉穂高校を 卒業してよかった。

平成26年度嘉中・嘉高大同窓会実行委員長
高校第40回 赤 間 秀 樹

「平成26年度嘉中・嘉高大同窓会」の開催に当たり、当番回期高校40回生を代表致しましてご挨拶申し上げます。

私は20代前半の頃、福岡市と粕屋町の会社で現在の仕事の修業に勤んでおりました。資格を取得し帰ってきた平成9年、「故郷に帰ってきたのだから」と思い、その年に初めてこの嘉中・嘉高大同窓会に出席しました。

私が幼いころから父は事あるごとに高校6回の同級生と集い、大同窓会の日はそのままと旅行まで行っていましたので、もちろん大同窓会のことは知っていましたが20代の私にとって、初めての大同窓会は驚きの連続でした。

まず、参加者の多さに圧倒され、体育館に近づくにつれてタクシーが進まないことには驚きました。

しかも、会場に入るも、高校40回の席札が見つかりません。「私はどこに座ったらいいでしょうか。」と会場の法被を着られた先輩に恐る恐る聞くと、「ここて。」と言われその席をよく見ると「高校25回～」と、ひとまとめに書いてあります。私の高校40回だけの席などある訳がありませんでした。

また、同じ「高校25回～」の席に座られている方々は、高校29回の野球部の先輩をはじめ直接お話することがはばかれる威厳に満ちた先輩ばかりでした。私は会場の中でも一番の下座に座って「こんなことが行われていたのか。」と、大同窓会の荘厳さと嘉中・嘉高の歴史の重みに何も喉を通らない時間を過ごしました。

その時先輩が、「45歳でこの当番が来るから、お前たちも40歳過ぎたぐらいから集まらないかんぞ。」と、笑いながら子どもに話すように言われ、それからこの大同窓会の当番を少し意識するようになりました。

その数年後、無意識に数名で集まるようになり、花見をしたり厄払いに行ったりと顔を合わせる機会が増え、思い出話や次に集う計画を立てるなど楽しく過ごしていました。そうしているうちに少しずつ大同窓会当番の話が自然に出てくるようになりました。

そして今から3年前、「当番は大変みたいだけど、

どうせやるのなら早めに始動し、少しでも無理なく楽しくやろう。」と自然と意識がまとまり同期会を立ち上げて準備をしてきました。早めに始めたつもりでしたが、時が経つのは早いものであっという間に今日の日を迎えることになりました。

私たちは、これまで仕事や地域の活動の場で「嘉穂高校を卒業してよかった。」と思ったことが多々ありました。こうして当番をさせていただきおかげで、各支部総会の行く先々で「当番がんばってね。」「楽しみにしちようきね。」と、何も知らない先輩方がまるで兄弟のように温かい声をかけてくださいました。

改めて嘉穂高校のつながりの有難さを知りました。

そして何よりも、この当番のおかげで高校40回のすばらしい友と再び結束することができ、今、再び「嘉穂高校を卒業してよかった。」と心から思っています。恩師と同級生に恵まれたことに心から感謝します。

さて、私たち高校40期は、昭和63年3月に嘉穂高等学校を卒業した、昭和最後の卒業生です。

本年度 嘉中・嘉高大同窓会は、「和」をテーマとして開催し、出席いただいた方々に、様々な面で和の素晴らしさを感じていただくため、40回期らしく一丸となり、心を込めておもてなしさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、大同窓会の開催にあたり本部同窓会の役員の皆様および嘉穂高校の関係者の皆様方には多大なるご協力を賜り、感謝申し上げます。

また、広告・協賛におきまして先輩・後輩の皆様、地域の皆様方にはご理解とご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

私たち高校40回生は、5年後の関東支部・6年後の福岡支部の当番を全うするまで、いやそれ以降においても母校や後輩諸氏のため、そして私たち自身のために同窓会活動に全力を注いでいくことをお約束します。

今後とも嘉穂高校卒業生として我が故郷、各地域に貢献できるよう努力して参りますので、これまで以上のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。